



本当に
助かりました。
どうも。

なあに
通り道
だから。

樹齢三千年のクスノキの写真を撮りに、
この村へ向かった方がいいが、
降りた駅にはレンタカー屋もなく、
タクシーにも断られ、途方にくれてしまった。



ありがとう
ございます。

あの時、たまたま通りかかった
軽トラのおやじさんに
拾ってもらえなかったら、

ガゴト

ガゴト



参ったな。
すげえ
とこだ。

木下ハジメ 26歳
商業カメラマン

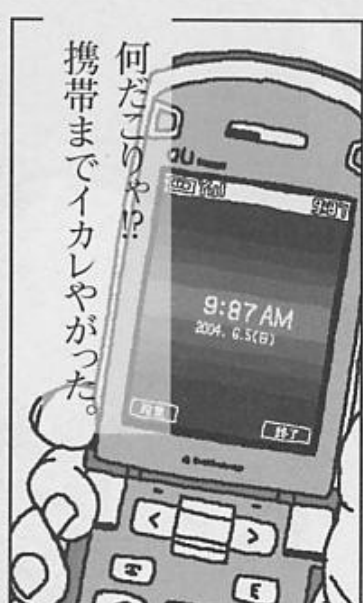
ここまで歩かなければならなかったと
思うと、ぞっとするほどここは...
遠くて、へんぴな村だった。

百貫でぶ
百太郎











もうつかむ岩も
草もないっす!
進めませんっ!!

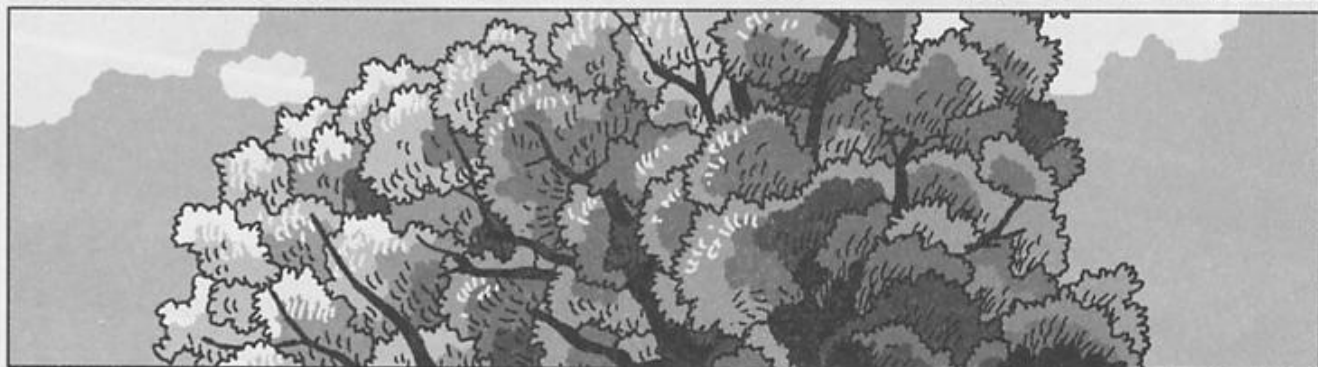


男のくせに
弱音をはくくな!
近道選んだのあ
おまえじゃ。

良く見ろ!
箸持つ方の手の
すぐ先に出っ張り
あるじやろが。

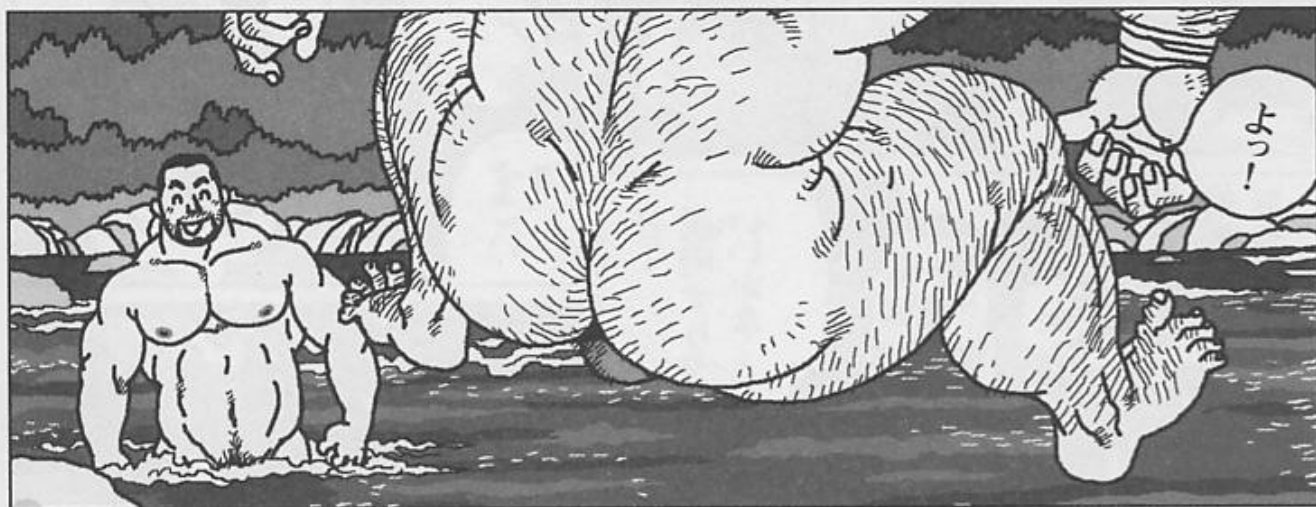


もうちよつと
じゃ。終いまで
氣い抜くなよ。

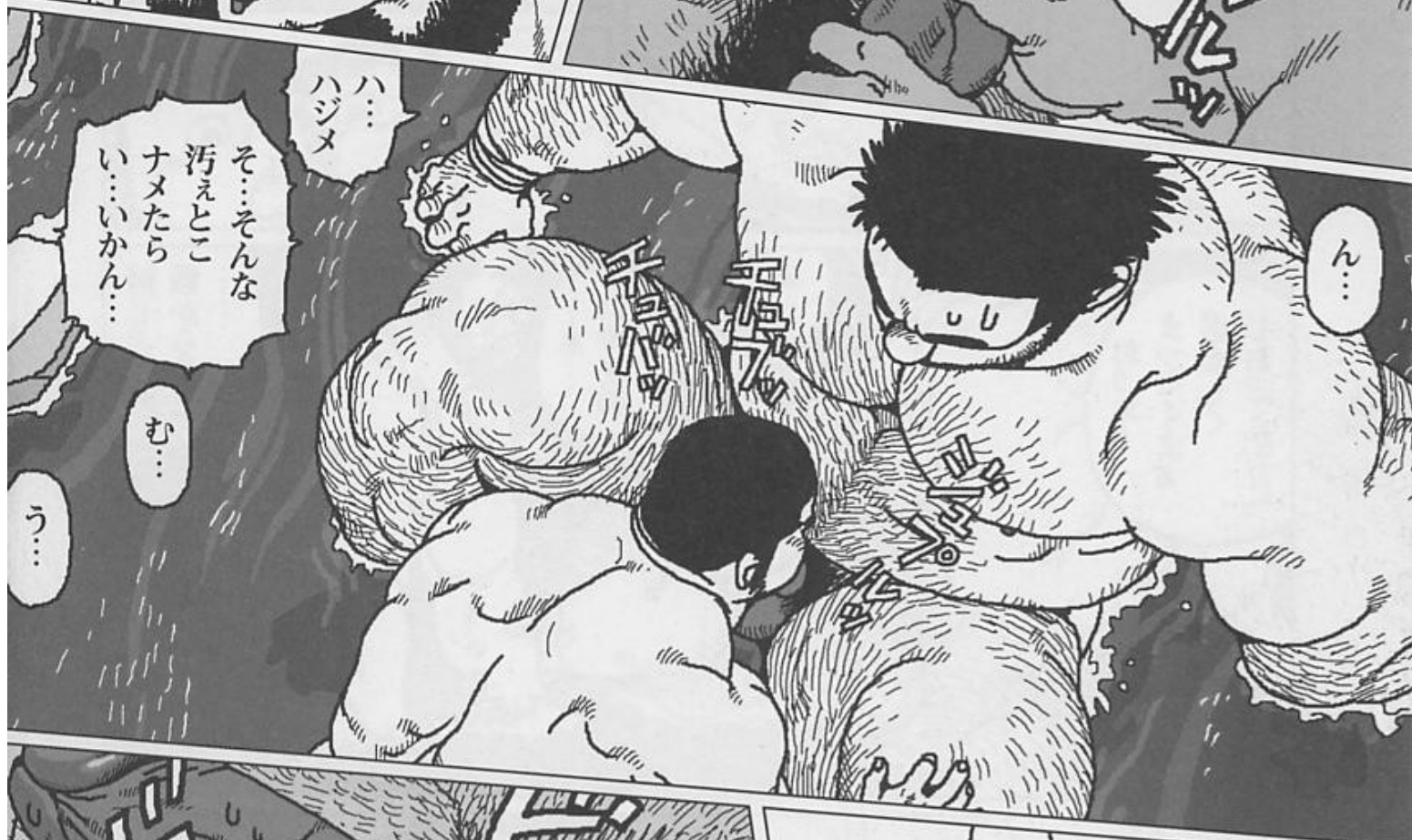
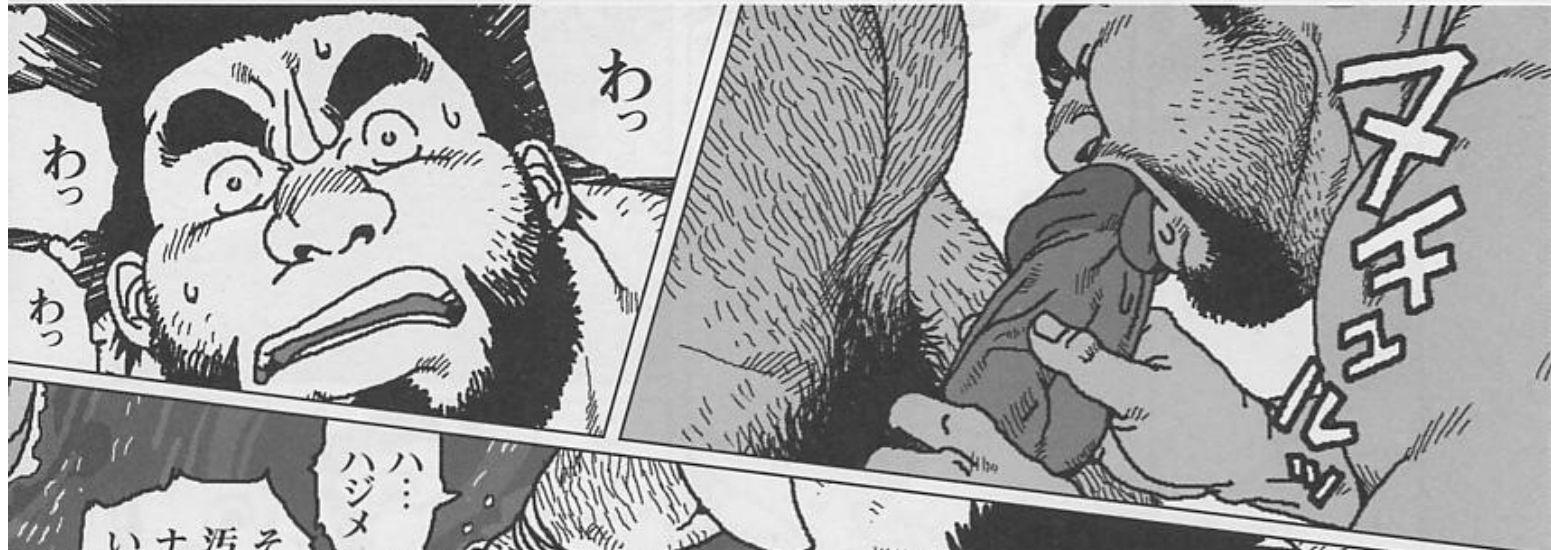














あっ!!

はあ

はあ

はっ：

.....



またすぐ
来るよ
百太郎。

そーだ、俺の町
にも来てみようよ！
皆んな驚くぜえ。

ワシは
里には
降りられん
から…。

町は嫌い
かあ？

パッパッ

あれーっ
おじさん
どしたの？

おバアに
おまえさん
隣町まで送れ
て頼まれ
てさ。

おばあ
ちゃん…

おいでよ、
必ず。

はい。

百太郎！
おばあちゃん！
それじゃ、

また
来ます！

——あいつが何だろうと構わねえじゃねえか。
あの村に行けば、また、百太郎に会える。

あの村がどこにあるかつて？

そりゃあ教えられねーよ。
だって、百太郎は俺だけのモンなんだから！



おしまい